

告示	番号	12	血液疾患
	疾病名	巨赤芽球性貧血	

巨赤芽球性貧血

ぎよせきがぎゅうせいひんけつ

概念・定義

巨赤芽球性貧血とは、種々の原因により骨髄に巨赤芽球が出現する貧血の総称である。

ビタミン B12 欠乏や葉酸欠乏などにより、DNA 合成が障害され核の成熟障害をきたし、異常な巨赤芽球が産生される。RNA 合成やタンパク合成障害は相対的に軽度であることから、細胞質は成熟し大きくなり、未熟な大きい核と細胞質間の成熟不一致がみられる。巨赤芽球の多くは成熟することができず、骨髄内でアポトーシスにより死滅し無効造血をきたす。DNA 合成障害は全身で起こり、貧血以外にも多彩な症状を呈する。

症状

- 1) 貧血
動悸、息切れ、易疲労感を呈する。

2) 消化器系

舌乳頭の萎縮、発赤を伴うハンター舌炎となる。胃では萎縮性胃炎がみられる。

3) 神経症状

ビタミン B12 欠乏症において、知覚、振動覚、位置覚の低下、深部腱反射亢進、意識障害、認知症様症状などのさまざまな症状を呈する。

治療

- 1) ビタミン B12 欠乏に対してシアノコバラミン筋肉内注射や高容量経口投与を行う。
- 2) 葉酸欠乏に対して経口投与を行う。神経症状を増悪させることがあるため注意が必要である。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/9_1_1.html